

<『100年前の脱穀機』で農業体験>

脱穀 もみすり そして うねづくり

各学校では5年生対象に、農業体験の一大イベントが繰り広げられます。

11月中旬過ぎ、稲木を組んで干した稲の脱穀作業の開始です。

しかし、児童たちが苦勞して用意した案山子や防鳥ネットも空しく、稲木の下には沢山の“もみ殻が散乱”！

スズメさんの仕業に子供たちも脱帽の一幕です。



この脱穀に使う機械は実際にお百姓さんが使っていた足踏み機械です。リーダーの稲山さんと児童たちが代わるがわる呼吸を合わせて足踏みします。

初めての体験で、足踏み板に“こわごわ”足を乗せて確かめます。

一旦慣れて来ると農作業の楽しい一時です。

脱穀が終わると今度は最新式の電動もみすり機で玄米にします。



あちこちに、もみすり前のお米がこぼれ落ちたのを拾い集め、作業も終了です。

平均10坪余りの田んぼで一体何キロのお米が収穫できたのだろうか。

各学校では軽量係が脱穀を終えると二人して、もみすり終えたお米を抱えて運び走ります。先生・・・6kgでした！

7kgや8kgと云った報告も続々届きます。

学校によっては、豊作で14kgの収穫も報告されました！



うねづくり



脱穀・もみすりの作業と並行してもう一方のグループでは『田おこし・うねづくり』に取り掛かります。

二毛作用（次回は淡路島の玉ねぎ植つけ）のうねづくりです。

これまでの作業と違って何種類かの鍬を使っての肉体労働です。

慣れない作業に数分が経過すると“腰が！”・・・、農家の人達の苦勞を体験する一コマです。

うねづくりでは、鍬の使い方が思うようにならず、悪戦苦闘の連続です。しかし、何度か熟すうちに要領を覚える児童が殆どです。

うねづくりがひと段落すると、これも初めて体験の『牛ふん』をその上に施します。“牛糞”と聞いただけで顔をそむける児童も散見される光景です。

風に気をつけながら、うねの表面に撒いて行きます。



最後の仕上げは、これもまた大変な『石灰撒きの作業』です。風に飛ばされる事に気をつけながら“大騒ぎ”で作業します。

今日の『農業体験で流した汗』は、子供たちの記憶に未永く残って欲しいものです。